

令和2年度 第2回学都松本子ども読書活動推進委員会 議事録

日時：令和3年2月15日（月）13：00～14：30

場所：松本市中央図書館 第1視聴覚室

【出席者】

豊嶋委員長、上條副委員長、小林委員、上條委員、赤津委員、舟田委員、越高委員  
（事務局）瀧澤中央図書館長、町田館長補佐、百瀬主査、大澤主事

【議事録】

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 委員長あいさつ

4 議題

【報告事項1 令和2年度 学都松本子ども読書活動推進事業報告】

事務局：説明

委員長：まず、ブックスタート事業についてご意見を賜りたい。

A委員：新型コロナウイルスの感染防止対策のため、ブックスタートで本を手渡す際、家庭で本を囲んで幸せな時間を過ごすという目的を保護者の皆さんへ十分に説明できていない。健診に出てこない、本をもらっても趣旨を理解していない人もいる。現在行っている事業の中で、伝える場があれば良いと思う。

事務局：現在は本を配布するだけの状況になっている。せっかく読書推進サポーターさんに、ブックスタートと一緒にいただいているので、本来であれば、趣旨を説明したり、読み聞かせを行う時間を取りたいところであるが、難しい状況になっている。保健センターでの活動が難しいのであれば、図書館の定例おはなし会等の中でそういった時間を取ることができればと考えている。今後検討していきたい。

委員長：ブックスタートは本を手渡すだけでなく、その趣旨が重要なので渡し方について考える必要がある。

10 か月健診の案内の際、当日、絵本の配布があるというお知らせは図書館からしていると思うが、どのようなお知らせをしているか拝見したことがないのでわからない。サポーターとして、何度か健診会場で本を手渡しお手伝いをさせていただいた。その時に、親子が悩んでいれば、内容を紹介して手渡すことができると思うが、既に決めて来ている方もいる。書店さんによっては、決めて手渡す

だけのところもある。

できる範囲で、「ぜひおうちで読んであげてくださいね」とか、「冊子も読んでください」という声掛けはしたが、すべての方に届いていないと思う。

プリント1枚でもいいので、この状況なので、こういう対応をしているということ伝えて欲しい。絵本と一緒に渡している「こんにちはえほん」に、なぜ皆さんに絵本を市として届けているのかということは書いてあるが、それをぜひ読んでくださいという一言を加えるプリントを1枚添えて渡すというようなことは、今でもできるのではないか。

事務局：ブックスタートのお知らせについては、こども福祉課のこんにちは赤ちゃん事業でチラシを配布している。そして、健康づくり課が健診の案内を送る際にもお知らせを入れている。当日、絵本と一緒に読み聞かせ方のパンフレットを配っているが、うまく伝わっていないと思うので、何か伝える方法が必要だと思う。

委員長：次に、セカンドブック事業について意見等あればお願いしたい。

セカンドブック事業は令和元年度から、第2次の子ども読書活動推進計画に伴って新たに始まった事業で、3歳児健診のときに、絵本を1冊プレゼントしている。

B委員：セカンドブックについて、会場でどのように選んでもらっているか。

事務局：候補本12冊の見本を並べて、子どもが手に取れるようにしている。親子で話してきてくれる方が多いが、事前に決めてきても当日見て変えることもある。親子での対話が、この施策で喜ばれていることだと思う。

B委員：子どもに対しても、図書館からのプレゼントだとわかるように、お手紙のようなメッセージがあると良いと思う。

委員長：ぜひ参考にしてみてほしい。セカンドブックについては始まったばかりなので、この5年の間に取り組みを検証しながら、次の更新時期を見定めて、より良いものにしていきたい。

次にボランティア養成講座について、来年度以降どうするかということも事務局から提案があった。事務局の方から今年度の様子について少しお話ししたい。

事務局：自分自身とてもためになる内容だった。定例おはなし会に、少しでも生かせればと思っている。また、受講者の皆さんは本当に熱心に講座に取り組んでいて、次にいつおはなし会ができるか聞いてくる方がいるくらい意欲的な方が多い。来年度以降も講座を実施していきたい。

委員長：先ほどの報告にあった通り、読み聞かせボランティアの登録者自体がすごく増えた。受講者の方は大変意欲的で、スキルアップ講座にも進んで参加している。ただ、活躍の場が、現在広げられないというジレンマがある。今後、ボランティアの皆さんが生き生きと活躍できる場をどう整えていくかについて、ぜひご意見

をいただきたい。

C委員：児童センターのつどいの広場やこどもプラザでの活動は一度ゼロになったが、現段階では少しずつ活動再開できているのでとても嬉しい。ただ、実施者と参加者のふれあいは少なくなっていて、親子のコミュニケーションは今まで同様取られている。小さくても、そういう場が設けられていることが肝心だと思う。

アンケートの異年齢向けの講座で、高齢者向けの講座を希望しますとか、幅広い年代に向けて、それぞれのやり方を学びたいという声もある。今の時期、高齢者へ読み聞かせをするのは難しいかもしれないが、今後活動できる場があれば良いと思う。

また、アンケートの年齢を見ると、受講者のほとんどが50代以上になっている。講座が平日の午前中ということもあると思う。若い人たちでやりたいけど、どこに行ってもいいかわからないという人たちを迎えられるように、土日にも1回か2回講座ができれば良いと思う。

委員長：中央図書館の定例おはなし会の日に合わせた曜日に開催するため、ボランティア養成講座は水曜日、活動時間に合わせて講座を開催している。スキルアップ講座は土日開催で、幅広い方に来てもらえるようにというような配慮はなされている。幅広い年代、子どもの本を知るという意味では、高齢者や大人向けに読み聞かせをすることも、決して子ども読書からかけ離れているとは思わない。確かにスキルアップ講座でそういったテーマを取り上げていくのも良いと思う。

D委員：今年は図書館でのクリスマス会が中央、南部、島内の3館しか開催できなかった。これは意識の問題でもあると思うが、一生懸命準備して、対策をとってやれば、少人数でも来てもらえるという考えで、ぜひ読み聞かせ等やってほしい。

委員長：各分館、クリスマス会の開催に向けて、会場の広さなどの問題を含めて検討したと思う。そういう中で、私も島内図書館が開催したことはすごく心強いし、嬉しく思った。

E委員：学校は本当に読み聞かせしたい方がいっぱいいる。それぞれの学校でボランティアの方がいらっしゃるし、この方たちが受講できる講座があれば良いと思う。昔は分館でも読み聞かせ講座をそれぞれやっていた。

高齢者向けの読み聞かせができれば良いが、コロナ禍で高齢者施設に入ることができない。様子を見ながらやっていかななくてはいけないが、将来的にはお年寄りへの読み聞かせは需要があると思う。

委員長：将来的にはという言葉があったが、まさにそういった意見を頂戴したい。今できないことを考えるのではなく、未来に向けて、より良くできることを考えていきたい。

F委員：児童センターでも外部から招くことは、一切できなくなってしまった。以前は毎月、図書館等からボランティアの方が来て、おはなし会をやっていた

ので、子どもたちは楽しみにしていた。現在は職員が週2回、1年生から6年生までの10名くらいの前で読み聞かせをしている。普段自分で読まない子どもも、読んであげると本当に良く聞いてくれる。読み聞かせが子どもたちに本当に必要なんだなと思う。

ボランティアの方も、児童センターでちょっと読み聞かせを経験させてほしいと言っただけであれば、喜んで入れると思う。少人数でちょっとやることも可能なので、ぜひ相談してほしい。

また、毎年小学校のバザーがあるが、その中で、絵本コーナーというものを学校の方で設けていて、絵本の読み聞かせの時間をとっている。何時からやると言うと、子どもたちが集まってくる。こうした場所にも入っていただけるのではないかな。

それから、地区の育成会の方も毎年行事内容を考えるのに頭を悩ませている。そういうところに声をかけるのも一つだと思う。

E委員：窓口が図書館だとお願いする側から見ると敷居が高い。読み聞かせボランティア40名の中でリーダーを決めて、窓口を委託するのはどうか。

委員長：ボランティアの人の中から代表を決めるという話は、方針としてあったが、このような状況でできていない。代表者だけではなく、ボランティア同士が学びあったり、読み聞かせの幅を広げあったりするような役割を担っていく人がいる形が良いと思う。

皆さんの意見を聞いて、学校ボランティアとの連携や高齢者に限らず施設のボランティアの可能性もあると思う。分館のおはなし会をはじめ、図書館が担っている出前講座での活動等、図書館で今後の活用を考えていると聞いている。

そこに児童センターが加わると、より活躍の場が広がって行くなと非常に明るい未来を想像できる。公民館で活躍しているボランティアではなく、図書視聴覚委員さんという方たちもいる。そういう人たちとの連携、協働みたいなところも、将来的には探っていけると思った。

B委員：現在、学校運営に取り組む地域住民ボランティアの名称はスクールボランティアからコミュニティ・スクールというものになっている。学校と公民館のうち、どちらかという今は公民館が窓口になっている。私自身は小学校での読み聞かせが大切だと考えている。コミュニティ・スクールを作るボランティアも、コロナの影響で活動が停止している。社会教育というのは、繋がりが一番大事なことだが、現在は完全にストップしている。信州型コミュニティ・スクールは認知度が低いところではあるが、その活動の場を確保して、読書が大事なことだと言っていく必要がある。

島内公民館長さんは、その有力な一員として、校長先生、公民館長さんに、意識を高く持っていただくよう働きかけていただけると嬉しい。

D委員：公民館が仲介になって、地域と学校を繋げていくのが基本だと思う。その中で、校長先生は学習の方に傾きがちで、どちらかと言うと体験学習をしたいという希望が多い。公民館長会でも信州型コミュニティ・スクールについて関心が高く、勉強会はやったが、コロナ禍で学校の方が活動することを恐れている。働きかけを一生懸命しながら、今後の活動について考えていきたい。

委員長：私の地域でもコミュニティ・スクール自体はストップしているが、学校の読み聞かせボランティアのうち、学校独自で動いている学校については、秋から冬にかけて、活動できた学校があると思うが、コミュニティ・スクールとしては、なかなか動くことが難しかったと拝察する。コミュニティ・スクールとの連携は、学校でのボランティアを考えるとやはり欠かせないことだと思う。

次にスキルアップ講座について、意見や質問等を伺いたい。1月16日の講座が特別警報Ⅱで延期となり、3月8日に開催されるということで、受講者の皆様への案内は済んでいる。本来であれば、この委員会の時点で4回終了しているはずだったが、最終回のアンケートをとって、来年度の第1回推進委員会でアンケートの集計結果の報告があると思う。今後どういう講座を希望されるか、アンケートに含まれると思うので、それらを踏まえて令和3年度のスキルアップ講座も計画されると思う。講座の内容も含めて、意見をちょうだいしたい。

B委員：もちろん高齢者向けの読み聞かせも必要だと思うが、高齢福祉課等で考えることであって、子ども読書活動スキルアップ講座の中でやるのはどうか。

委員長：1つの考え方だと思う。すでに子どもを含め、多世代に向けた読み聞かせをしている人の裾野を広げたり、学びを深めるという意味においては、完全に離れたことではないが、図書館の方で合わせて検討してほしい。

## 【報告事項2 令和2年度 第2、3回作業部会の報告】

事務局：説明

委員長：こんにちはえほんの改訂については、皆さんの意見をちょうだいして校了となり、印刷にかかるとのこと。作業部会の中で読書案内人の皆さんからいただいた意見を多く取り入れて、このような形となった。

中高生向けに関しては、これから始めるというところで、積極的に図書館職員の皆さんが下準備して進めてくださった。試作段階のおすすめ本リストを見ていただきながら、今後ホームページも活用し、リストに載っている本だけでなく、同じテーマでもう少し幅広い本を、中高生に向けて紹介していくような取り組みを年度内に進めていくところだと聞いている。

作業部会の報告について、質問や意見等あればお願いしたい。

事務局：作業部会で、鎌田中学校の学校司書である井原先生から、図書委員の皆さんが積

極的にお手伝いしてくれるという話があったので、そういった中学校にリストを試験的に配布してみようと思っている。ただ、一校だけではいけないので、他の中学校にも声をかけて配布したい。年度末は各学校図書館で蔵書点検を行うことが多いということなので、新年度早々にもアンケートをつけて配布できるよう準備を進めている。

今年度は読書案内人と図書館職員だけの作業となったが、作業部会でも現役の中学生がいた方が良いとの意見もあったので、来年度はそういった形で作業部会が実現できればと思う。

図書館に専用の棚を作るかということだが、書架のスペースの問題でなかなか厳しいので、ホームページ上に専用ページを作ることになった。状況に合わせてやっていきたい。

B委員：中学・高校が近くにない図書館では、中高生の姿を見ることはほとんどないが、それは無理からぬことと思う。学校司書さんと話し合っていくことが大事だと思う。

A委員：導入的なパンフレットを作っても、熱を持って伝える人がいなければだめだと思う。図書館職員の中で、YAのスペシャリストを育ててほしい。YAの本や書評を全部読むような人が必要だと思う。最初は地道なことで大変だと思うが、そういったことをすることで次の展開が見えてくると思う。

また、もちろん本来は対面が理想だと思うが、このコロナの状況で、ブックトークをズームでやってみたところ、本や話している顔が良く見えるので、ブックトークがズームにも向いていることがわかった。本当に熱をもってこの本面白いんだよと伝えると、子どもたちにもそれが伝わる。そして、本を読んだ子ども同士でも情報が広がっていく。

E委員：中高生向けの作業部会に出席したが、熱量がキーワードだと思う。熱くないと中高生には伝わらない。「多様性」と「知識」のグループに参加したが、職員の方も頭を悩ませていた。高校生の娘に聞いて来たが、ふんつと言われてしまった。発信することが苦手な人がけっこういるが、ちゃんといえる人が言うと面白い。その熱量が大事で、コメントを読むときにも多分伝わってくる。今のリストを見ると十分に入っていないものもあるので、これを取っかかりにして、高校生にふんつとされないものを作ってほしい。このリストも良いものであれば、中学校の学校司書も使ってみよう、並べてみようと思ってくれる。自分が学校図書館にいたときにも、中央図書館から防災の本を並べてくださいと言われて並べたが、やり方が大事だと思う。学校との信頼関係を築いて、これ面白いですよ、並べてくださいね。並べるだけじゃなくて、ちゃんと進めてくださいねって言える関係になると良いと思う。

10年前だと考えられないようなことを館長さんはじめ職員の皆さんがやってく

ださっているのです、初めの一步としてどんどん進めて、学校だけじゃなくて社会教育や児童センターの方ともコミュニケーションをとっていけると良いと思う。

委員長：私も作業部会に参加して、図書館の皆さんと一緒に中高生向けの選書について考えるという時間が持てたことが、本当に大きな一步だったと思う。学校司書の先生方、もちろん中高生本人たちや、中学校の図書部の子たちに来てもらうとか、様々な可能性が広がって行くことを期待している。例えばコミュニティ・スクールと、あるいは社会教育の皆さんと、もっと風通しよく繋がって行けるような一歩が踏み出せるといいと思う。

ちなみに安曇野市の図書館は高校生が棚を作っている記事が新聞に載っていた。また、塩尻市では、中学生を主にしおり部という図書館部員を募集して、中学生がともに図書館で活動している。あるいは、他自治体を見てみると、中高生自体がおすすめる本をリスト化して発表しているような図書館もある。様々な可能性が出てくると思うが、スペシャリストを育てるというのも一考だと思し、外部から招くという考え方もある。ビブリオバトル、ブックトーク、帯を書くという図書館の取り組みもある。様々な情報を収集して検討し、松本らしい2歩3歩を踏み出してほしい。

棚については、リストがだんだん出来上がってくる段階で、どんな棚にするかどこに置くか、考えていく必要があると思う。特に、学校司書さん、中学生と、いかに手を携えていくかという2歩目に期待したいと思う。

### 【報告事項3 学都松本子ども読書活動推進事業の今後の進め方】

事務局：説明

委員長：子ども読書ノートについては、一覧で令和4年度開始となっているが、令和5年度に改めるということで良いか。

セカンドブックについて、現状を精査し、検証し、更新の時期を迎えると思うが、それを子ども読書ノートの開始に合わせて、令和4年度調整の、令和5年度更新という日程を目指して今後動いていくと聞いている。

また、次の第3次の計画については、第2次の計画が5年間なので、令和5年まで、そして令和5年中に、第3次計画をこの5年の取り組みを踏まえて、策定される予定である。

D委員：人材育成のところで、お楽しみ絵本便とあるが、これは保育園、幼稚園へ絵本を届けて読み聞かせをしないということもあるのか。

事務局：この取り組みは計画には載せていないが、これを入れたのは、子ども読書カードを平成24年に学校から始めて、平成29年に対象を子ども読書活動に関わる団体に広げたが、せつかく作ってもらったのに借りに行けないという声が

あったので、この絵本便をやってみようという話になった。推進サポーターさんか読み聞かせボランティアさんか、この時点ではサポーターということで考えていたが、そういった方たちに届けていただいて、読み聞かせをしていただければと考えている。決して、届けて終わりではなく、届けるのと読み聞かせセットで行いたい。

委員長：子ども読書カードというのは、我々読み聞かせの団体、図書館に登録している団体、それから小中学校、高校、保育園、幼稚園といったところで、個人のカードではなく、団体として一度に20冊、学校は40冊借りられるもの。有効に活用しているという声も聞いている。

B委員：中高生への働きかけで、図書館にコーナーをあえて作らなくても良いと思う。本を自分で見つけ出す喜びもあるし、他の年齢の方にとっても名作は名作なので、あえて本を移動しなくても良いと思う。

委員長：棚を作るかについては、様々な意見を踏まえながら、検討してほしい。

第2次計画の2年目にして、随分なことが進展していると思う。職員の負担は大きくなっていると思うので、心配する気持ちはあるが、応援したい。応援し、ともに手を携えて、より多くの方々とも繋がって、子ども読書を進めたいという気持ちは皆さん変わらないと思うので、これからも引き続き皆様方の応援をお願いしたい。

コロナは想定外ではあったが、松本の図書館がもっと良くなると思えることを本当にうれしく思う。引き続きできることを協力していただきながら、やっていきたい。

最後に、ボランティア養成講座2年目となったが、この講座で初めて読み聞かせをやってみようとか、子どもの本の奥深さに触れている方々が多く、スキルアップ講座にも楽しそうに参加されているのを見て、大変嬉しく思った。こういった方たちが、また下支えとなって、広く子どもたちに本が届くように、それが地域の力に繋がっていくように、力を尽くしたい。今年度こういう状況だったが、委員会を無事に開催できた。皆さんの協力に感謝申し上げます。

以上